

「地域史料研究会やわた」の活動

—古文書の保存と活用をめざす協同調査—

京都府立大学文学部 特任講師
竹中 友里代

近年、急速に失われつつある古文書について、緊急に保全の取り組みを民間レベルにおいても真剣に考えなくてはならないと強く感じ、八幡における古文書の調査と保全について考え、実行する会として著者を含め市民有志が集い「地域史料研究会やわた」が2015年3月に発足した。

本会の最初の取り組みとして、八幡市八幡西高坊にある神応寺の古文書調査に入る。『神応寺文化財調査報告』(2003年、八幡市教育委員会)の調査時には、すでに多くが失われ、古文書目録・典籍目録が掲載されているが、その後市場に流出した古文書等を住職の努力で買い戻された。豊臣秀吉朱印状2通、徳川家康はじめ歴代將軍領知朱印状や右衛門佐局書状など10通に、江戸参府日記等合わせて32点である。およそ1年をかけて調査を行い、追加古文書目録を作成し、写真撮影・翻刻等を行った。同時に壇所町にある念佛寺の古文書についても追加目録と写真撮影を行い、史料整理方法や写真撮影の経験を積み、日々改良と研鑽を重ねている。これらの成果は、神応寺の朱印状翻刻史料と念佛寺古文書調査として『石清水門前寺院・南山城地域の古文書—京都府歴史資料の調査—』(2016年、京都府立大学文化遺産叢書第10集)に掲載した。

その後、当時神応寺に預けられていた「片岡光次家文書」に、墨跡や絵画資料等を含め31点を目録に追加し、全155点の写真撮影を行った。神応寺の信徒である旧所蔵者は、当主が他所へ移転し古文書の管理が困難になり、寺院に集う会の活動に信頼を寄せ、所有権と保管の責務を寺院に託されたものである。

これらの調査経験を通して、各会員の古文書解読能力はゆるぎないものとなり、2015年～17年『祇園祭山鉦鉦金具調査報告書』の史料編の翻刻にも協力している。

2017年1月には、橋本の旧家橋本家の古文書が借用でき、調査の機会を得た。橋本家は、石清水八幡宮の社士(侍)で徳川家康から代々將軍領知朱印状を拝領し、中祖初代の橋本等安は連歌師里村紹巴と親交があり、豊臣秀吉の御連衆という。橋本惣町の自治や朝鮮通信使人足徴発などの文書810点があり、興味深い資料群である。2018年7月までの作業の成果は『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第5号(2019年)で紹介している。今後は内容に踏み込んだ調査を進める予定である。

ここで、メンバーが属す八幡の歴史を探究する会の部会「八幡の道探究部会」を紹介しよう。市内各所には、昭和2・3年頃三宅安兵衛が建立した道標をはじめ近世の道標が多く残り、『やわたの道しるべ』が1982年(2002再版)に郷土史会から出されている。

当時としては道標から古道と地域史を知る画期的な一冊であるが、ここで東高野街道の名称がはじめて使われ、近年行政でも古道の名称として定着していた。ところが市内に東高野街道を刻む近世の道標が存在しないことから、この名称に疑問を持ち、2015年10月八幡宮参詣道を示す近世の道標を探索する部会として立ち上がったのである。

この成果は2017年刊行の『石清水八まん宮道』に誘う道標群—江戸時代の八幡道標—で銘文・写真に所在地を記録している。調査の中で元の場所から移転されたり、転倒したまま放置された道標も発見され、歴史資料の喪失を懸念していた。この時壇所町の青林庵内に横倒しにされていた近世の道標を古道「立枯道」の角に建て、銘文解説板も設置し、記録にとどまらない活動を展開している。市内外からの共感・情報を得て周辺地域の21基の道標を追加した増補版が翌2018年10月に出された。今回は、地図はネット上でも位置確認が可能で、現地を訪れやすいよう配慮がされている。道標から江戸時代と現在を繋ぐまさに「みちしるべ」の一冊となっている。

メンバーは、これまでも「松花堂昭乗研究会」や「八幡の歴史を探究する会」(2010年～)・「古文書の会八幡」(2009年～)などでも活動し、『島田市郎家文書翻刻』1～7冊・『翻刻瀧本菜』・『翻刻柏亭日記』などの史料集を出し、石清水八幡宮の門前町である八幡地域の特徴ある歴史に関心を寄せている。とりわけ各メンバーは、市が所蔵する古文書の写真撮影を2012年頃から現在に至るまで定期的に継続してボランティアで奉仕している。この古文書原本に接する機会によって、古文書に記される史実に遭遇するたびに、原文書が発する魅力とその重要性を肌で感じただろう。市民が古文書の保存に実際に関わる効用は大きかったといえる。各自が研究を進めるなかで、既存の歴史像への疑問を解き明かし、より詳細かつ正確な史実を追求するには、原本閲覧等のレファレンスは欠くことが出来ない。これが容易であれば地域の歴史研究は進展し、学校教育での地域学習や生涯学習、観光資源の発掘にも繋がり、わが町の誇りとなるとの思いが膨らんだのではないだろうか。史料として公的機関で保管されるものは、研究者だけでなくそれを望む誰に対しても、原則として広く開かれてほしいものである。こうした市民の長きにわたる熱心な奉仕活動に対して、どのように応えるべきだろうか。古文書の適切な保存措置とともに、撮影データを含め貴重な地域の歴史・文化等の資産を積極的に公開し、様々な機会を通じて活用を望むものであり、また協力を惜しまないつもりである。

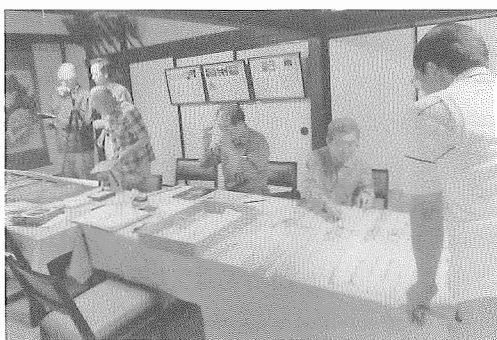


写真1 神応寺での朱印状調査の様子

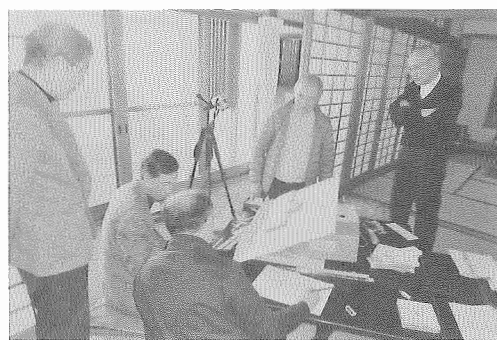


写真2 念佛寺書院での古文書写真撮影

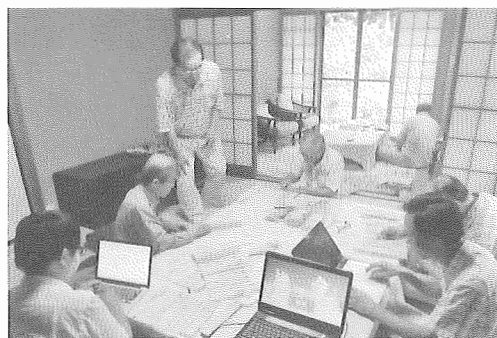


写真3 橋本家文書目録採取の様子



写真4 研究成果の刊行

表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 「舞鶴の歴史アラカルト」パンフレット
- 2 文書蔵出し調査風景 東昇撮影
- 3 舞鶴地方史研究会との共同調査 東昇撮影
- 4 舞鶴クレインブリッジ 松岡秀雄氏撮影
- 5 東舞鶴高校での授業風景 廣瀬邦彦氏撮影

京都府立大学文化遺産叢書（2008～）

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報
—御用日記・諸願控の総合的研究—
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽市域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山域の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 八幡・南山城地域の寺院資料と信仰—京都府歴史資料調査—
- 11 舞鶴の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 13 古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究
- 14 舞鶴・京丹後地域の文化遺産
- 15 沖縄の宗教・葬送儀礼・戦没者慰霊



京都府立大学文化遺産叢書 第16集
舞鶴の地域連携と世代間交流
井上奥本家文書調査報告

編集 東 昇
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5
発行日 2019年3月30日
印刷